



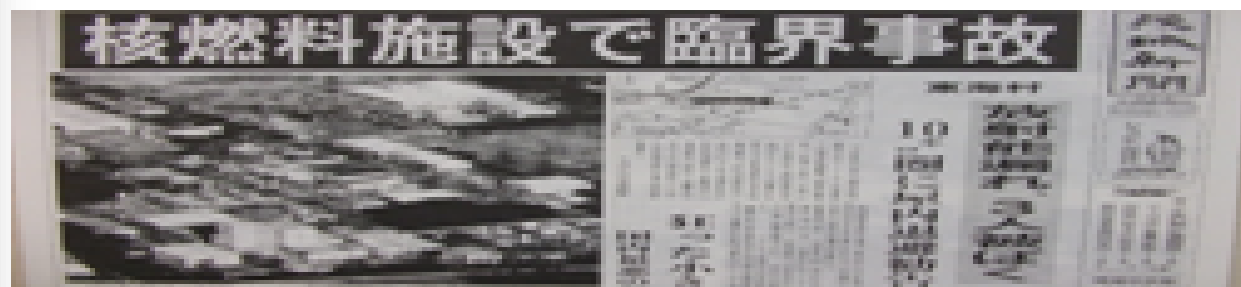
「自己への配慮」としての認知症予防  
Zoteria東海15年のあゆみから

第36回健康医療ネットワークセミナー  
於;東京大学医科学研究所  
2017.April.5<sup>th</sup>

## ゾテリア東海 メンタルケア&リサーチ21

- 1999・JUN アルツハイマー型痴呆研究プロジェクトとして那珂医師会に「メンタルケア&リサーチ21」設置

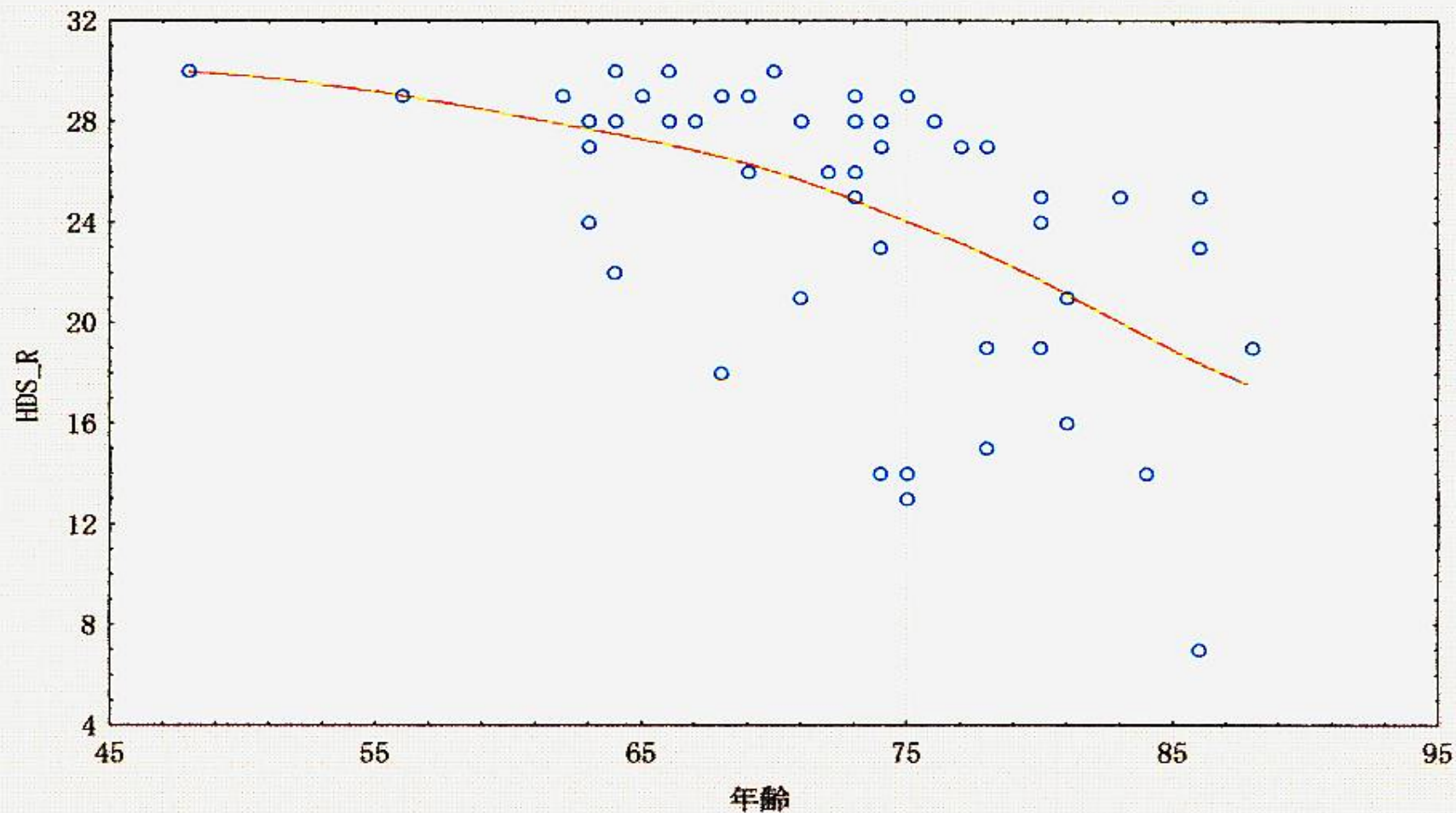
1999・9・30 東海村JCO臨界事故



- 2002・MAR web長谷川運用開始
- 2003・MAY 那珂ケアネット運用開始
- 2003・JUN 東海村ものわすれ健診
- 2003・DEC 茨城県医学会シンポジウム「手をつなごう」にて取り上げられる
- 2004・JUN ZOTERIA東海立ち上がる

散布図 (toukai-1.STA 16v\*56c)

$$y = \text{重み付き最小2乗近似} + \text{eps}$$



## 健診結果から

- 最終的にフォローアップされた69名中14名が痴呆およびそれに準ずる状態にあると診断(20%)
- 家族からの問診上6名に明らかなBPSDが認められた(9%)
- 痴呆と診断されなかった者も含め32名(家族のみの要求も含む)が何らかの支援を必要としていた



# 84歳妻が夫殺害

容疑で逮捕 2人組の犯行装う

兵庫

兵庫県警は十六日、八十歳の夫を自宅で殺害したとして妻の岡本花子容疑者(84)姫路市網干区津市場Ⅱを殺人容疑で逮捕した。当初、「二人組の男が夫を殺害し、現金を奪って逃げた」などと証言し強盗殺人を装っ

ていたが、証言に不自然な点があることなどから県警が追及、一転して犯行を自供した。

の頭部を切りつけたり殴ったりするなどして殺害した疑い。

調べによると、花子容疑者は七月十一日午後九時半ごろ、自宅の和室で刃物や金づちなどで無職、岡本章さん(当時80)

花子容疑者は自ら一〇番。駆けつけた警察官に「夫が二人組の男に襲われ、タンスから現金四百六十万円を奪われた。自分も顔を殴られた」な

どと証言した。「二人組は約一週間前に自宅を訪れた電器店を名乗る二人の男に似ていた」とも話していた。その後の捜査で、外部から侵入された形跡がないなど、証言と

現場の状況が食い違つたとが判明。二人組の目撃情報もなく、凶器の刃物も自宅の包丁だった疑いが強まった。県警が証言の詳細を追及すると「私がやりました」などと犯

行を認めた。奪われたとする現金もタンスになかったこともわかった。章さんの頭部や両腕には数十カ所の殴打痕や切り傷があるなど、執拗(しつよう)な暴行を加えて



# バトラー・エイジズム

- 年をとっているという理由で、高齢者を区別して不利益な扱いをすることー浜口1996
- 日常生活における軽蔑、嫌悪、回避にはじまり、社会との関係を断ち切られる事まで含む。
- エイジズムは、老いに対する無理解や不合理な恐れであり、老人の考えが時代遅れだとか、衰えて醜いとか、ネガティブにステレオタイプ化されたイメージに起因する  
バルモア1995

# 介入の困難さ 疚しさ

- 現場のスタッフは、その提供するサービスが「**当事者**」の日常生活そのものに拘っており、それなくして日常生活が実現しないために、もっとも可視的にそしてもっとも直接的に**侵入性**を告発されている。
- それは、日常生活を管理することを媒介にしないではサービス労働自体も体現できないからである。

「過渡期の社会福祉状況」**高沢武司1973**



合理的に組織された社会編成は理性的に考える機会  
そのものを奪い去るかも知れない

M.ウェーバー

社会的諸法則による認識は社会的  
実体の認識では決してなく、  
我々の思惟が用いる種々の補助  
手段の一つに過ぎない。

また、個性的な形姿をもつ生の  
現実が、個々の関係において  
有する意義を基礎とする以外に、  
如何なる文化現象の認識が考え  
られるであろうか。

茨城新聞

# 核燃料施設で臨界事故

東海村

## 放射能漏れ、3人被ばく

### 10キロ圏に屋内退避勧告

狂った小さ  
国内最悪の



サリン実行犯に死刑判決  
ユースで市民と警察が衝突  
自由の街の新しい役が決定  
群馬県農業関係者は10万円

茨城の天気

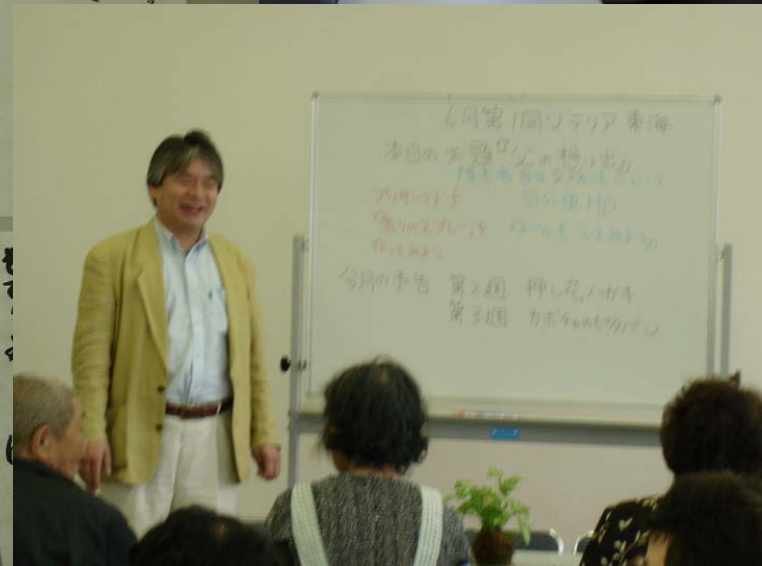


- 1) 安定したアタッチメント対象の提供や安全な環境を作り出すこと
- 2) 感情・対人関係の調整スキルを向上させること。(健康なスキルを増やすこと、問題行動や症状に頼ることをやめる)
- 3) トラウマのことを話し、その意味づけを一緒に考える。悪循環のもとにある自己・他者の認知の歪みの変更を行っていくこと
- 4) 社会的なつながりを回復させること

# ゾテリア東海「サポーターズ」 アティテュードによる支援

- 「潜在的にできること」と「自信がないから出来ない」のギャップは関わらなければ埋まらない。関わることは知ることから。
- 認知障害とともに生きる人のトータルな能力は未知数。その人を知るために自分の五感を相手に対してフォーカスさせてみる。
- 参加者同士 抱えているリアルを共有することで 相互の関わりに配慮が芽生えてくる。
- 相手の人生についての考えること。保護されたい欲求を抑えて、希望をもって生きる。





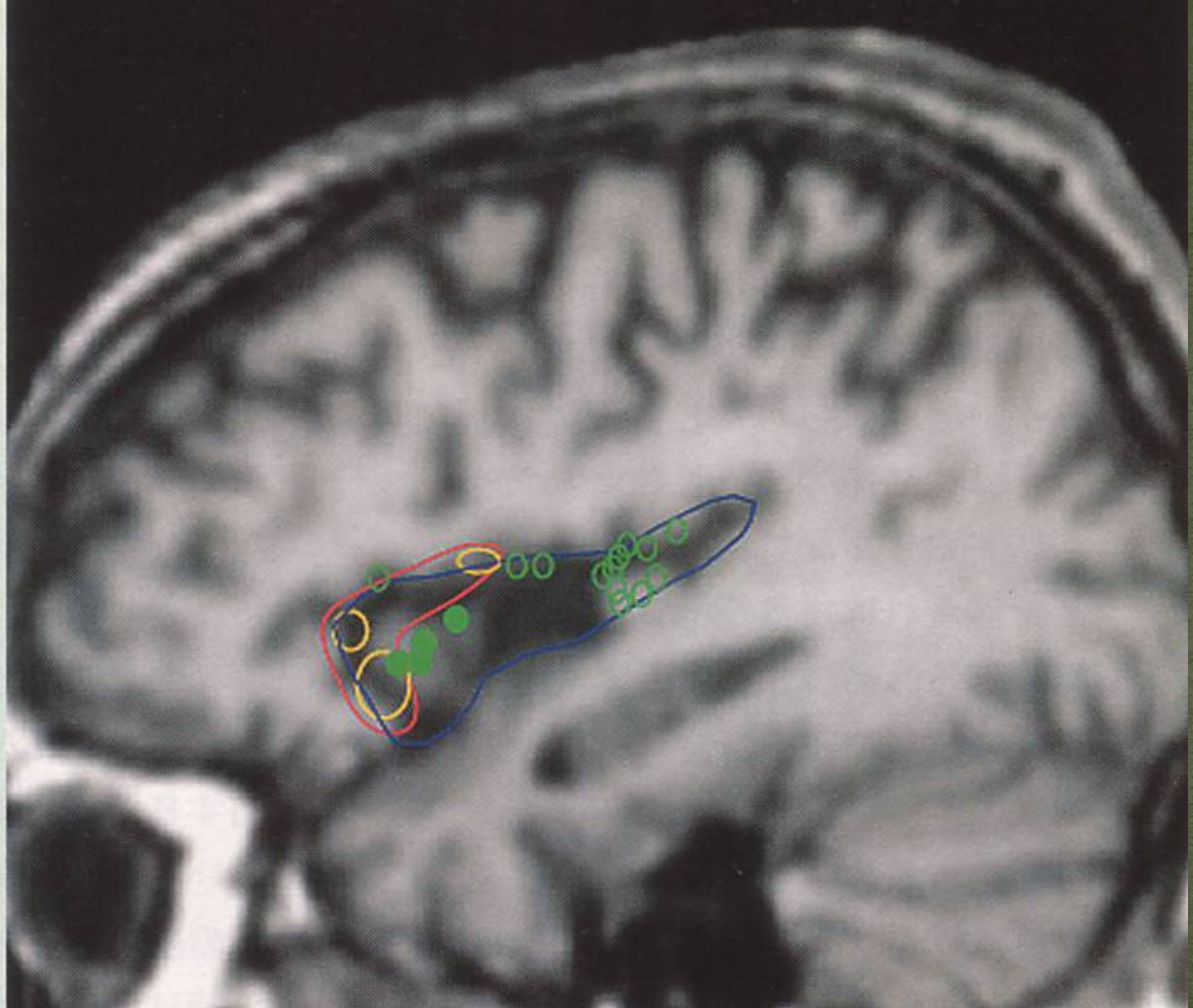














# 前頭側頭葉変性症の疾患スペクトラム

意味性認知症や進行性非流暢性失語でも、脳の変性が進むと、ピック病の症状が現れる（ピック化）。さらに歩行障害が現れれば、大脳皮質基底核変性症や進行性核上性麻痺となる。これらはすべて、「ピック関連疾患」と考えられる。

## 進行性非流暢性失語 (PNFA)

- 症状**
- ・陰性症状が主体
  - ・行動症状をともしない
- 第一選択**
- ・フェルラ酸含有食品



## 意味性認知症 (SD)

- 症状**
- ・陰性症状が主体
  - ・行動症状をともしない
- 第一選択**
- ガタンタミン＋  
フェルラ酸含有食品



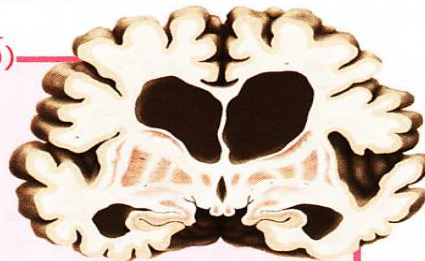
ピック化

## 前頭側頭型認知症 (FTD)

- 症状**
- ・陽性症状が強い
  - ・激しい行動症状をともしない

- 第一選択薬**
- ・クロロプロマジン（定型抗精神病薬）
  - ・フェルラ酸含有食品

脱抑制や常同行動などの行動障害が特徴。抑制系の薬剤で鎮静化する。



ピック病

歩行障害の出現

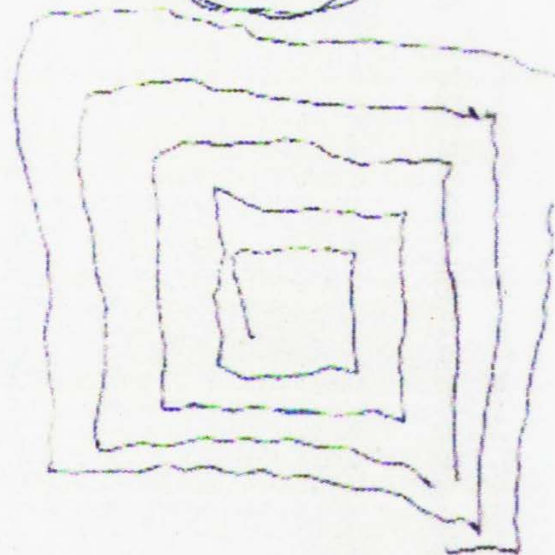
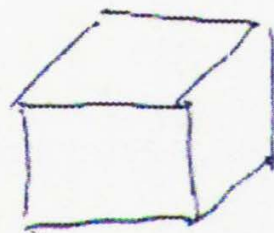
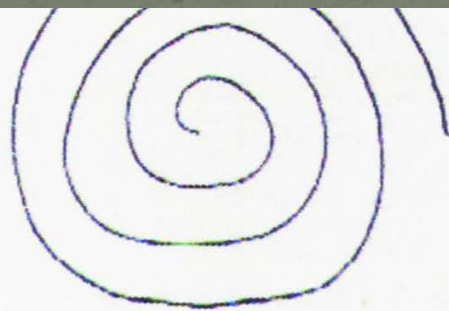
## 大脳皮質基底核変性症 (CBD)

- 第一選択薬**
- リバスチグミン＋  
フェルラ酸含有食品

## 進行性核上性麻痺 (PSP)

- 第一選択薬**
- リバスチグミン＋  
フェルラ酸含有食品

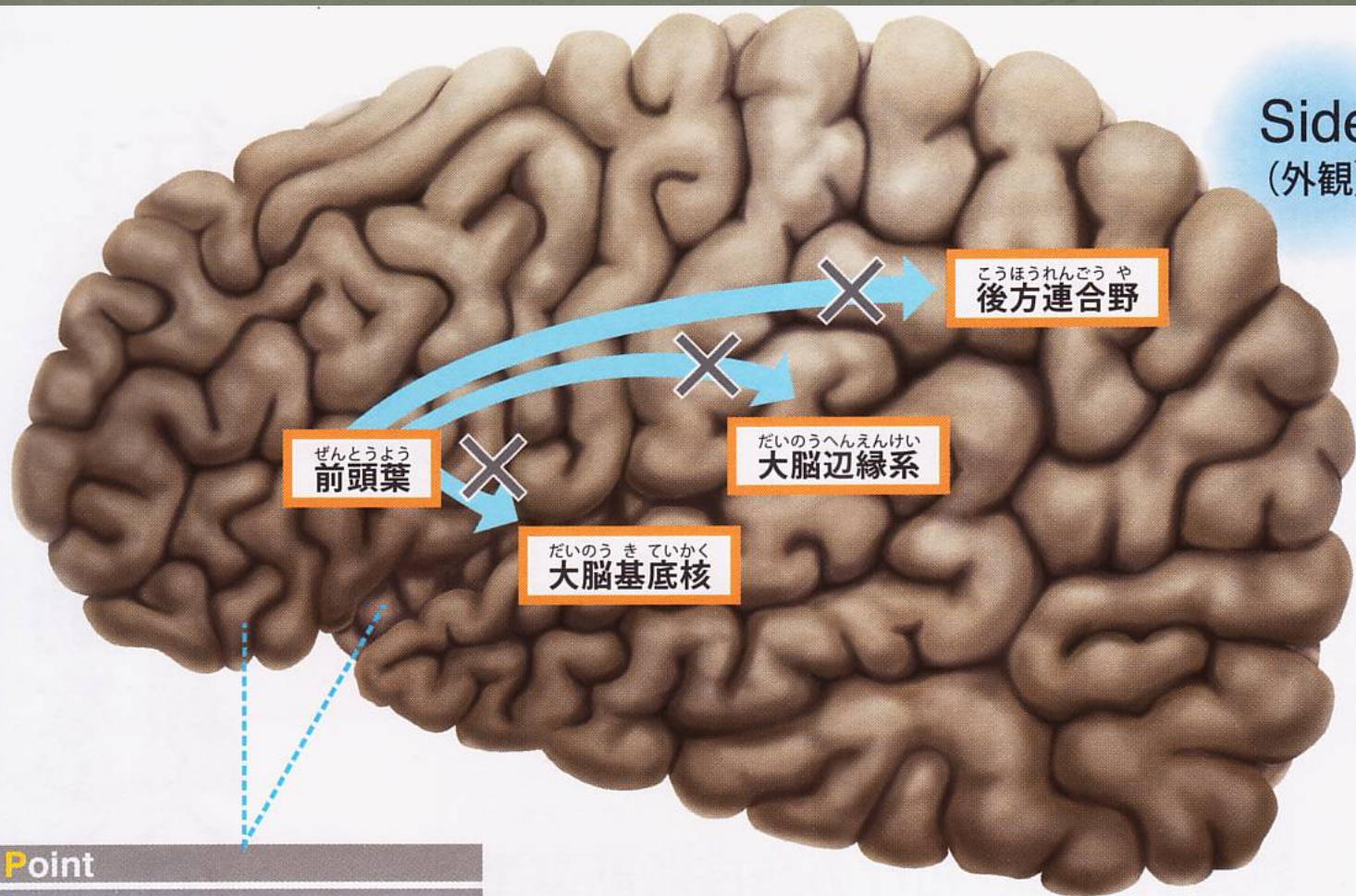




1. 凡在本行存款者  
 2. 凡在本行存款者  
 3. 凡在本行存款者  
 4. 凡在本行存款者  
 5. 凡在本行存款者  
 6. 凡在本行存款者  
 7. 凡在本行存款者  
 8. 凡在本行存款者  
 9. 凡在本行存款者  
 10. 凡在本行存款者



Side  
(外観)



Point

前頭葉底面(眼窩面)が萎縮し、  
外側溝が大きく開いている

後方連合野、辺縁系、基底核系への抑制が外れる

# BPSDは介護者に負担 /ストレスを与える

特に配偶者および娘に対して  
(特定の行動でなく)ストレス  
が施設入所につながる (de Vugt et al Int  
Psychogeriatr 2005;17:577-589.)

## Aggression

# 薬物療法に反応しにくい行動症状

(Sadavoy 2004)

- 放浪
- 歩調合せおよび出口の探求
- 絶叫および不適切な言葉による表現
- トイレの問題への抵抗
- 不適切な排尿または喀出
- 買いだめ
- 離脱(メチルフェニダートに反応しうる無関心とは区別)
- 何らかの性行動







たとえその人が口もきけず目も見えずに  
ただ終わりを、死を待っているだけであろ  
うと「魂」は存在しているのです。

「クリスティーン・ブライデンになる」という自己への配慮



わたしの最期のときまで  
わたしを見捨てないでください  
私達は脳や意識ではなくスピリ  
チュアリテで繋がっています。

私をたすけ、一緒に歌い、ともに  
祈り、**私の記憶**になってくださ  
い。

**ポール&クリスティーン・ブライデン**



君がきみの自由な非妥協性をもって行う力の行使は  
どんなにささやかなものであろうとも革命的なものなのだ



移民支援のデモ 1971年11月27日 Photo : ©Gérard Aimé & Cie.

- 真理の性格が生に作用を及ぼす
- シニシズムに捉えられない「吠える犬」



## 1 一度目は悲劇として、2 度目は茶番として

カール・マルクス「ブリュメール十八日」1852年

死せるすべての世代の伝統が夢魘のように、生ける者の頭脳をおさえつけている。まさに革命の最高潮の時期に、人間はおのれの用をさせんとしてこわごわ過去の亡霊どもを呼びだし、名前とスローガンと衣装をかり、借物のせりふで世界史の新しい場面を演じようとするのだ。

クリスティーンはアルツハイマー病の宣告をうけ、言説に揺らぐ葦のようだった。自己の自己性において、自己がほかならぬ自己自身であるということが、最も深刻に疑問に付される事態はかつて精神分裂病と呼ばれた。日常の生活空間で認知症という病に対峙したクリスティーンは、「生のマイノリティ」として、包摂や排除という社会システムの作動を止揚し、世界における人間の存在とは何であるか、自分自身であるとは如何なる事態であるか、という根本問題に我々をいざなうのだ。





# 症例 85歳 女性

- 60歳で胃がん摘出、78歳で左乳がん手術
- 80歳で夫を亡くしてから悲嘆反応  
希死念慮 夜間徘徊
- 食事も摂らず「死なしてくれ」
- ミルタザピン15mg 処方開始
- 1日目良眠
- 2日目歌を歌って踊るまね
- 3日目「近所の人にヤラレル」以後落ち着く
- 夕食準備の際に下駄箱の**グルホサート服毒**
- 10日後に無事退院 希死念慮・悲嘆消失
- 「私飲んだの？へんだねえ覚えてないね」





# パトスのスペクトラム

## 身体性(Leiblichkeit)の変容



情態の変化：病感も「病識」もある

両方の共存：病感はあるが病識はない

行動の異常：病感も病識もない



ストレス・環境因

正常脳

脳器質障害・老化

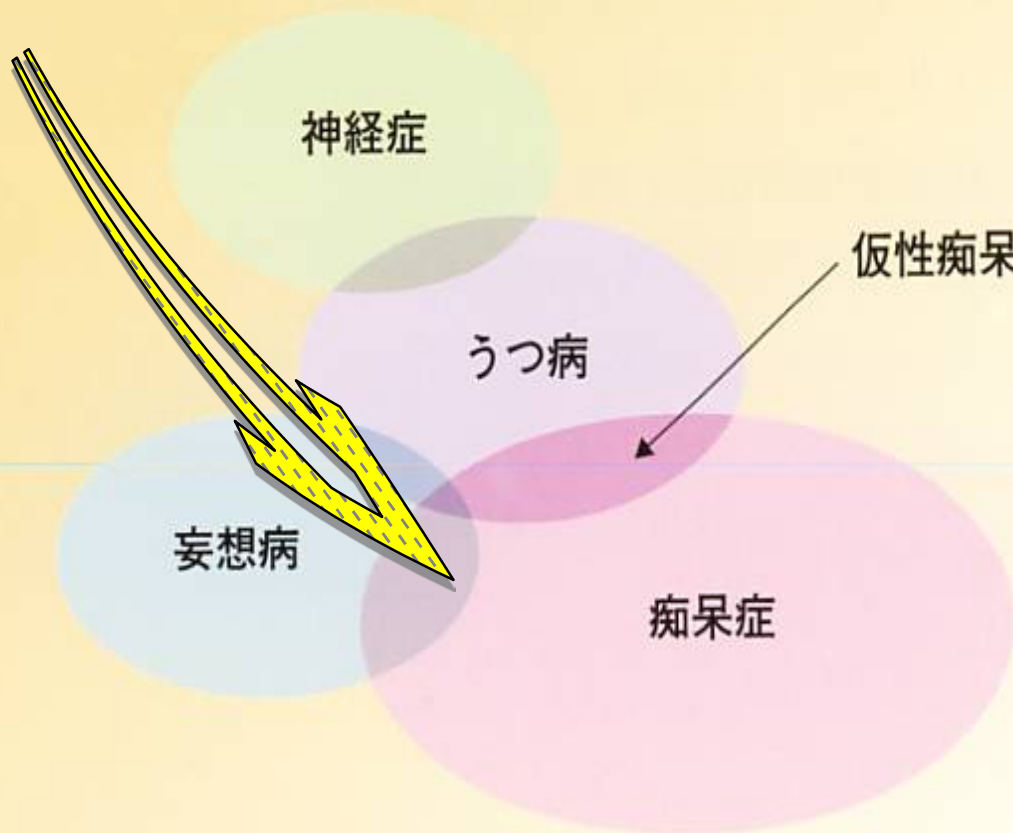
神経症

うつ病

仮性痴呆

妄想病

痴呆症



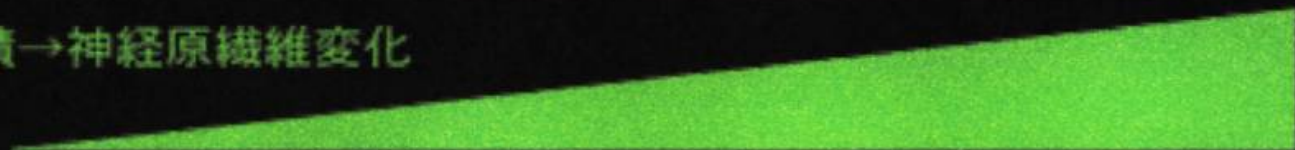


# アルツハイマー病の病態生理：アミロイド仮説

アミロイド  $\beta$  蛋白の蓄積→老人斑形成



タウ蛋白の蓄積→神経原繊維変化



神経細胞死



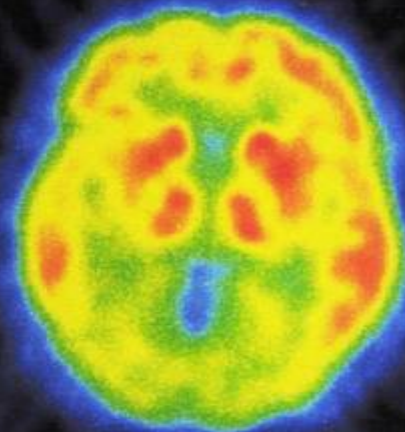
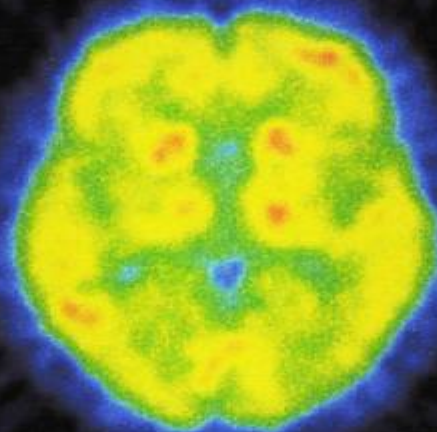
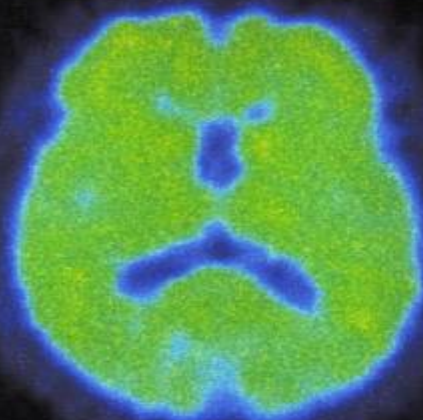
認知症



健常者

軽度認知障害

アルツハイマー病



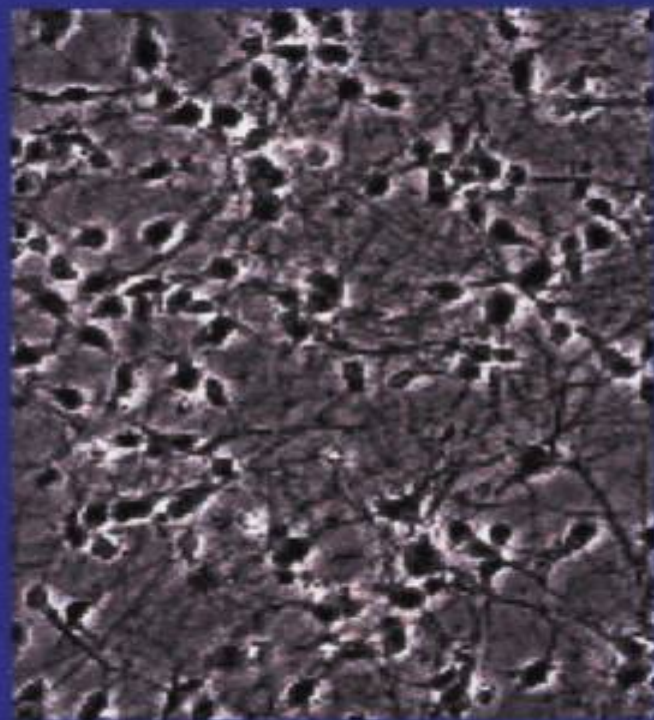
SUV

0

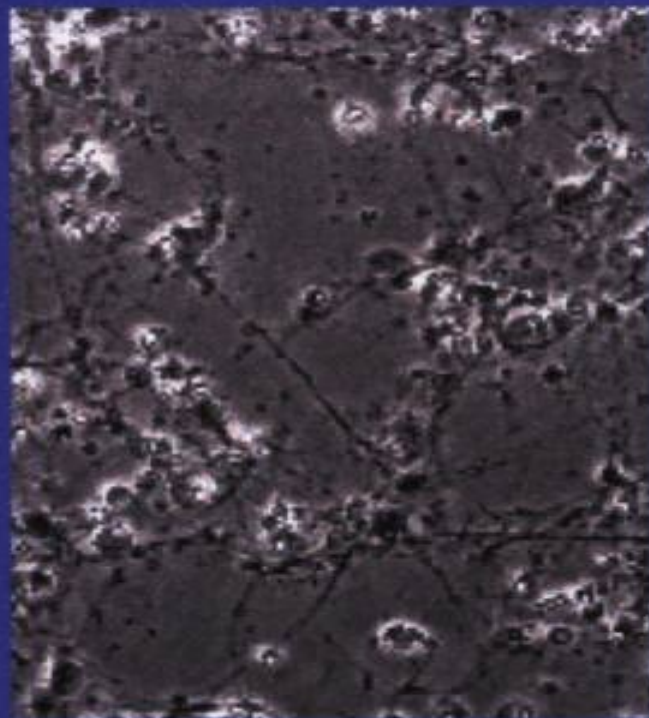
2.5



# アミロイドで神経細胞は死ぬ



未処理

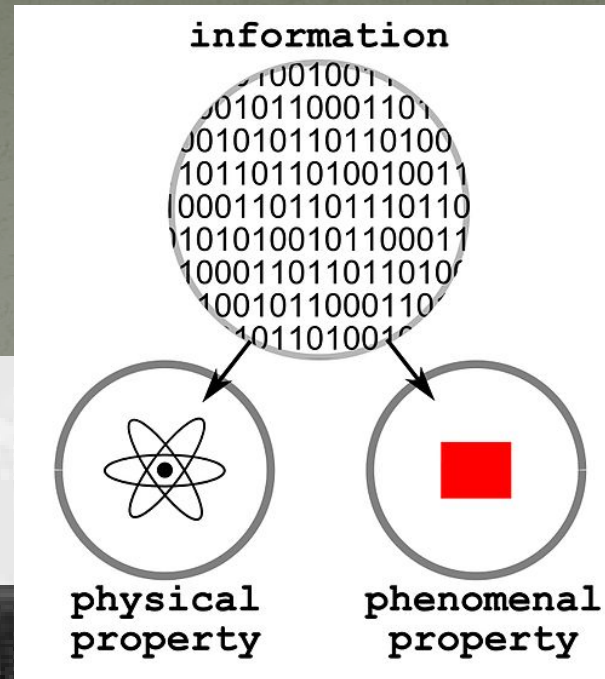


アミロイド処理

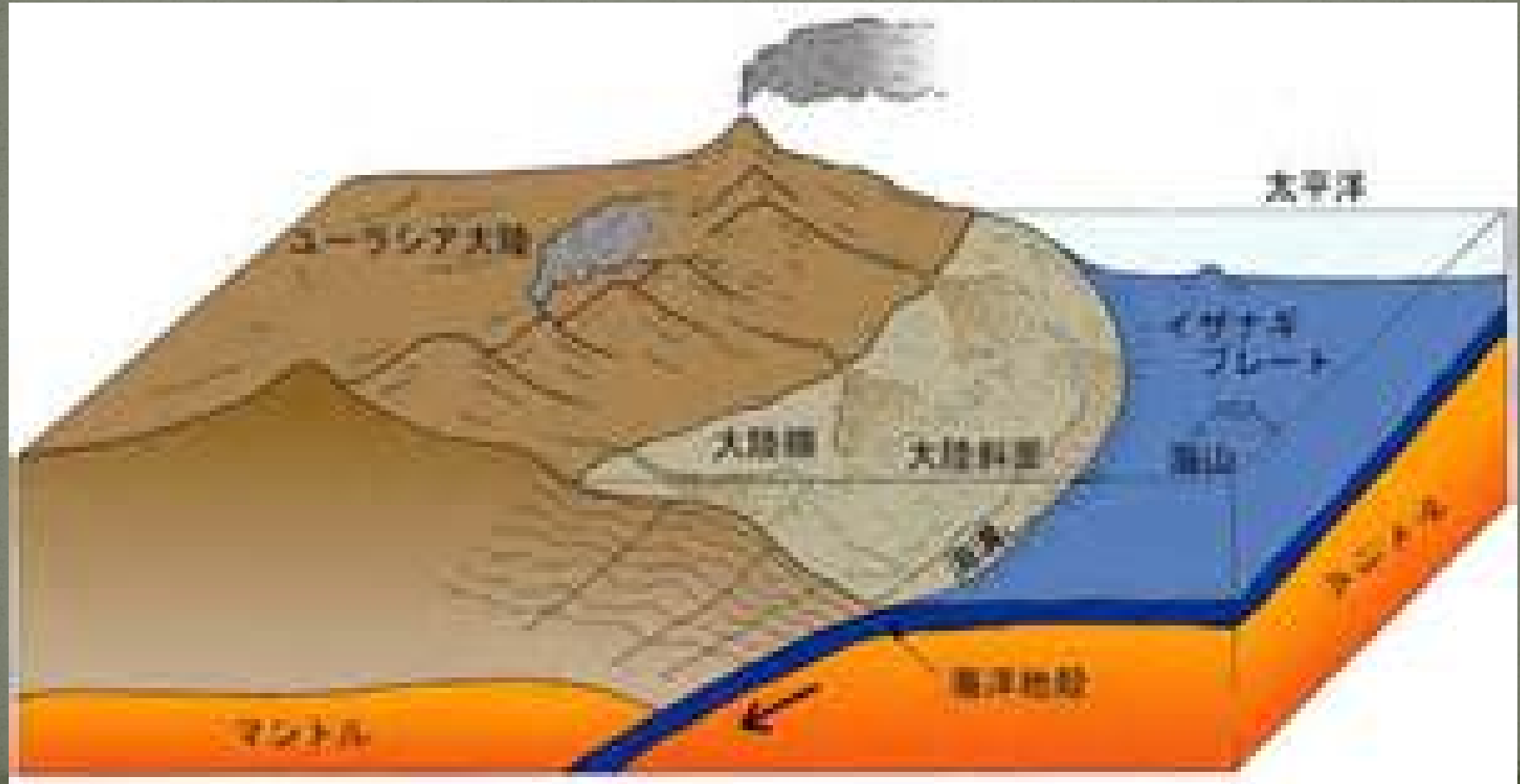




- **David Chalmers**  
Hard problem



# アクチュアルな自己 記憶を構成素とした場合

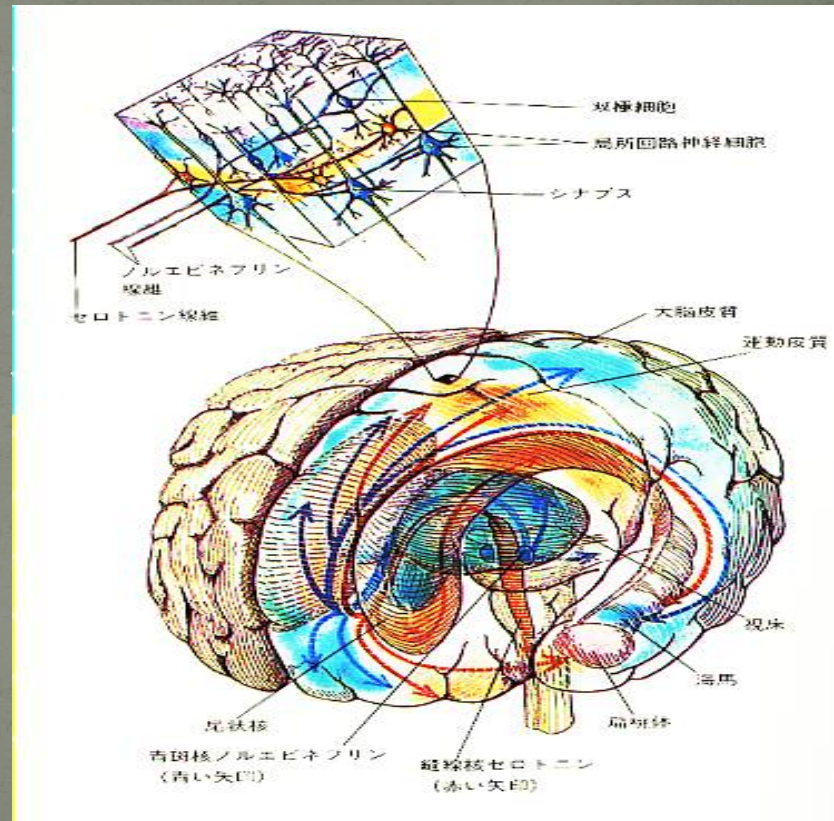




# リボアの法則 Ribot, T.A. 1839~1916

- 記憶は最近のできごとから失われてゆく
- 知的な記憶より体験的な記憶が失われにくい
- 知的能力は感情よりもはるかに失われやすい
- 日常の習慣的なことや長いあいだで身に付けたことは最後まで残る

ー記憶のバイアスー



# 物語ナラティブの消失にともない BPSDが出現してくる

認知症の特異な病態として問題  
行動と把握されてきた症状(徘徊  
など)にはトラウマの痕跡が  
認められることがある

記憶障害(健忘)はストレス反応。  
としての生じることがあり つよ  
い精神負荷に対して神経の脆  
弱性が現れる防衛機制である  
認知症研究においてBPSDの出  
現と物語再生能力の消失はほ  
ぼ同時期に生じてくる







★自己感覚変化で以下を含むもの

- ・孤立無援感あるいは主動性の麻痺
- ・恥辱、罪業、自己非難
- ・汚辱感あるいはスティグマ感、孤立感

★他者との関係の変化で以下を含むもの

- ・孤立とひきこもり
- ・親密な対人関係を打ち切ること
- ・持続的不信、反復的自己防衛失敗

★感情制御変化であって以下を含むもの

- ・持続的不機嫌、自傷、慢性の自殺念慮
- ・爆発的あるいは極度な憤怒の抑止
- ・強迫的あるいは極度な性衝動の抑止

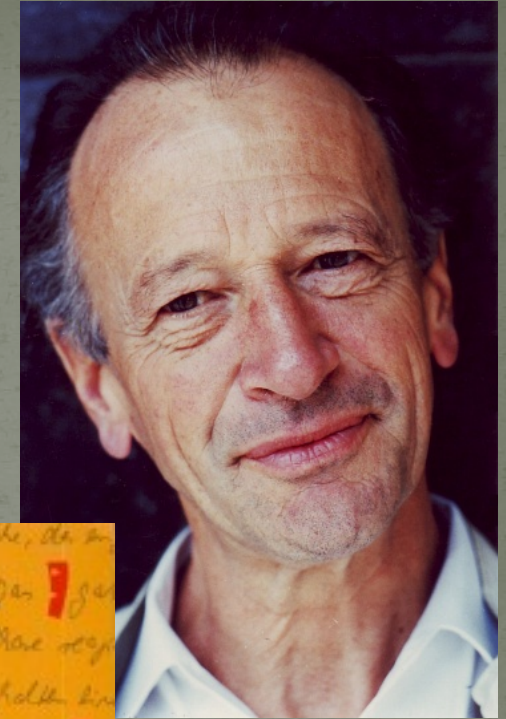
★意識変化であって以下を含むもの

- ・外傷的事件の健忘あるいは過剰記憶
- ・一過性の解離エピソード
- ・離人症・非現実感
- ・再体験でフラッシュバックや反芻的没頭

ジュディス・ハーマン

「心的外傷からの回復」より抜粋

“The Soteriaconcept. Theoretical bases and practical  
13-year-experience with a milieu-therapeutic  
approach of acuteschizophrenia” Luc Ciompi





# ゾテリア東海サポーターズを 核にしたミームの修正システム

サポーターズとして活動  
認知症者に寄り添い  
支援者としての態度を学ぶ

潜在的な能力を知り  
認知症があっても  
生きていることに共感

自己の衰えを知り  
自身への配慮から  
支援を受け入れ  
感謝をしめす

# ゾテリア東海2016

委員会活動(自主運営会議)

イベント企画  
運営委員会

編集・広報  
委員会

マップ・クリ  
ティカルパス

財務・調査  
委員会

総合運営会  
議

部活動(ライフスタイル研究)



ギリシャ部

- ・ 美術・演劇・音楽・哲学
- ・ 地中海様式の起源から探る



レイチェル・カーソン部

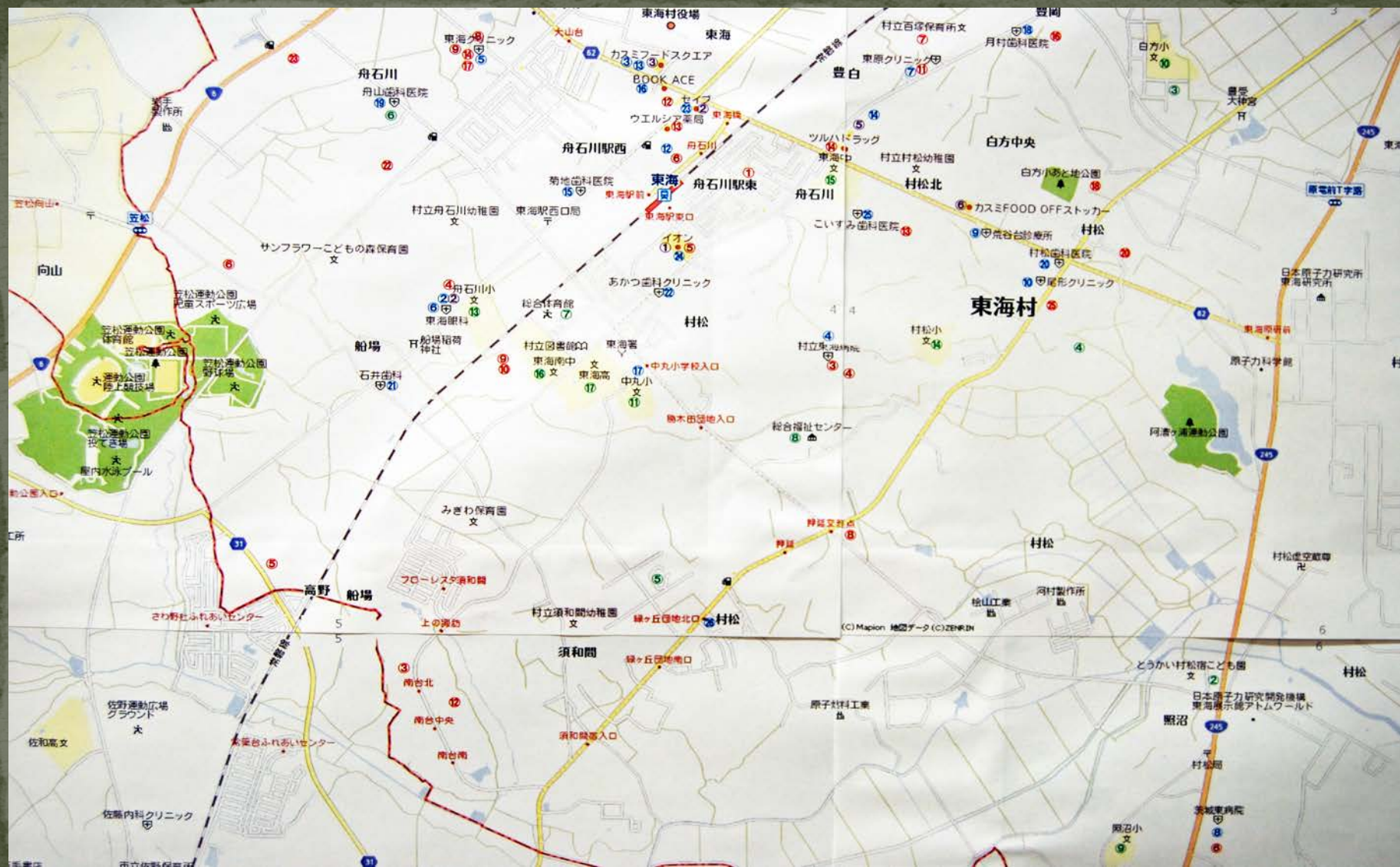
- ・ 生物学・環境汚染・災害
- ・ 人と環境の関係性から探る



晴耕雨読・雨ニモマケズ

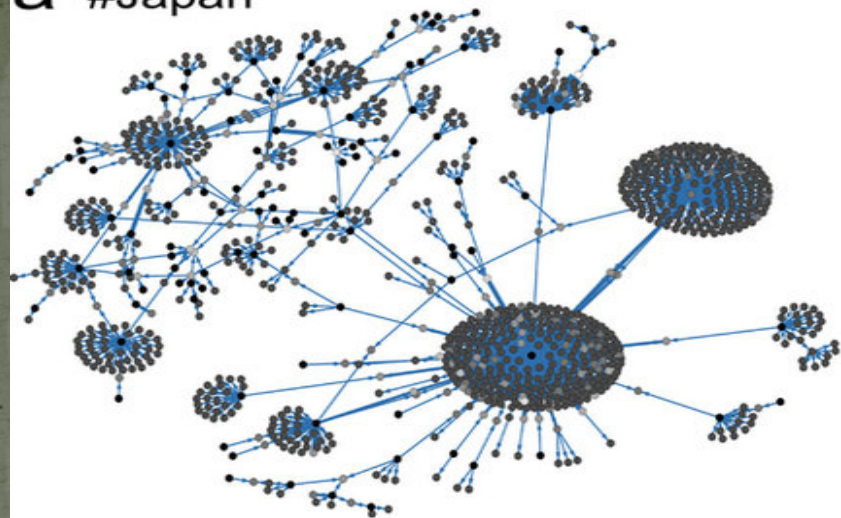
- ・ ビジタリアン・発酵・里山海
- ・ 共同体的自給自足を探る



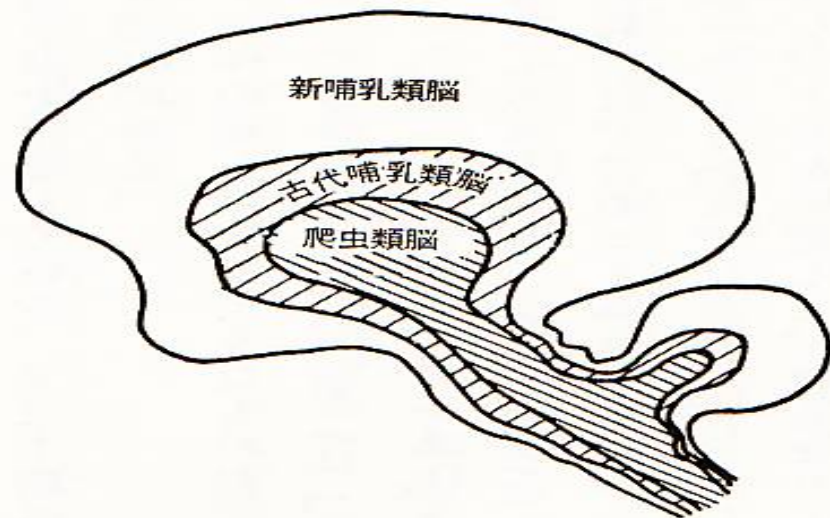
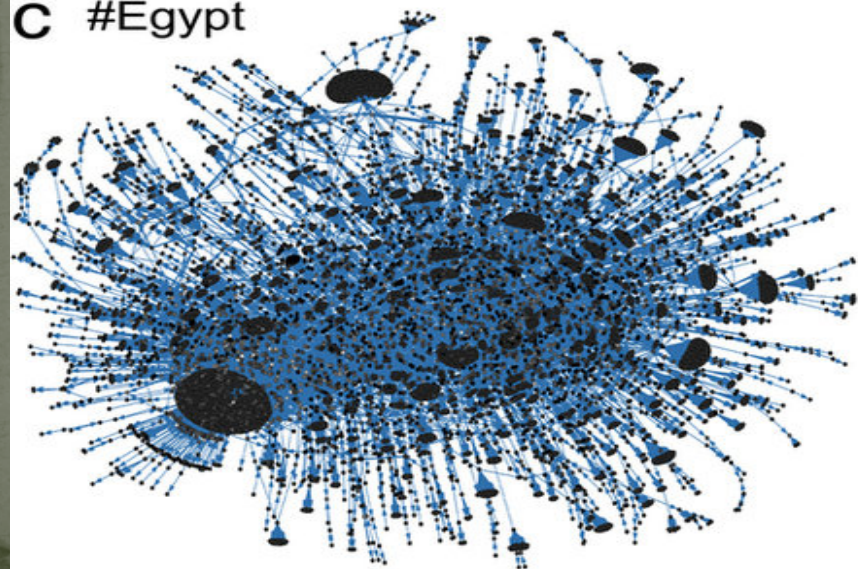




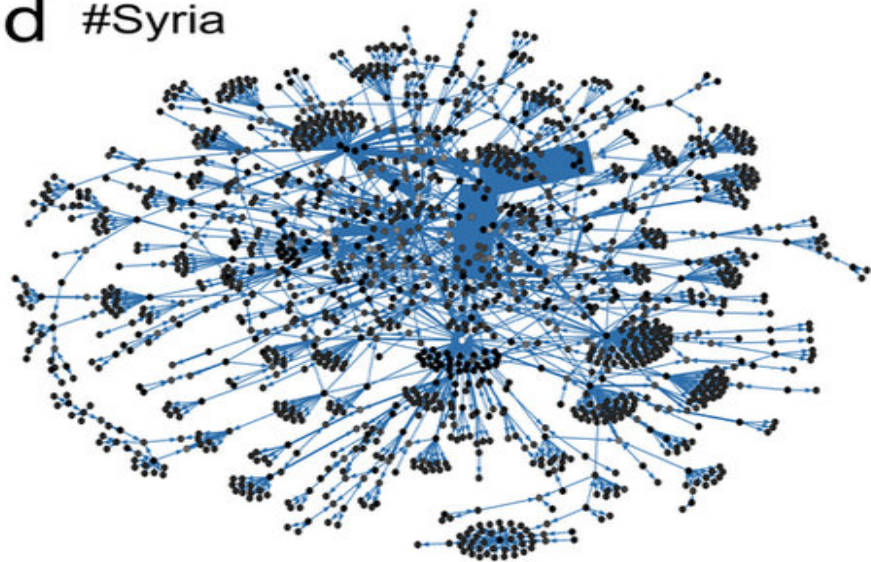
a #Japan



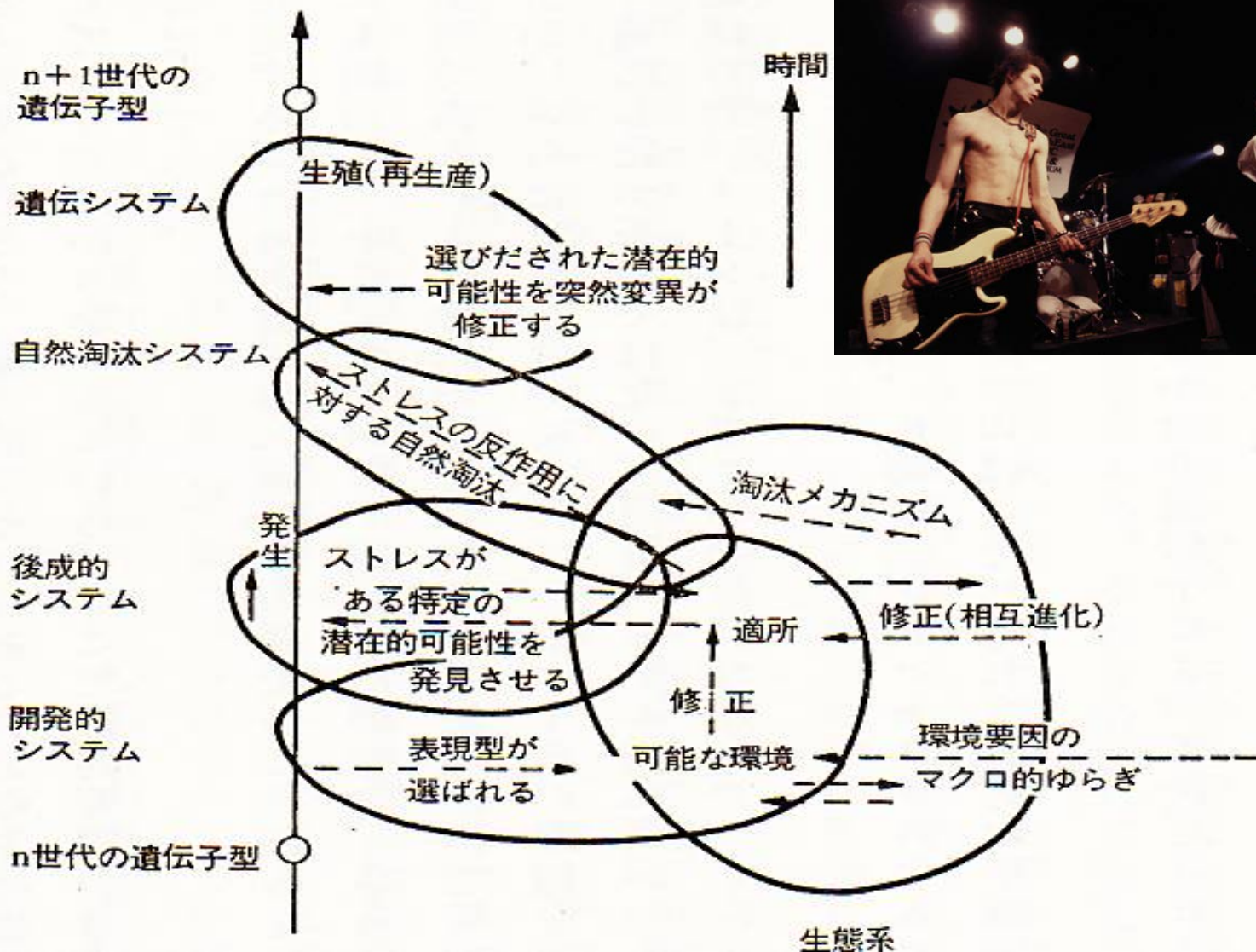
c #Egypt



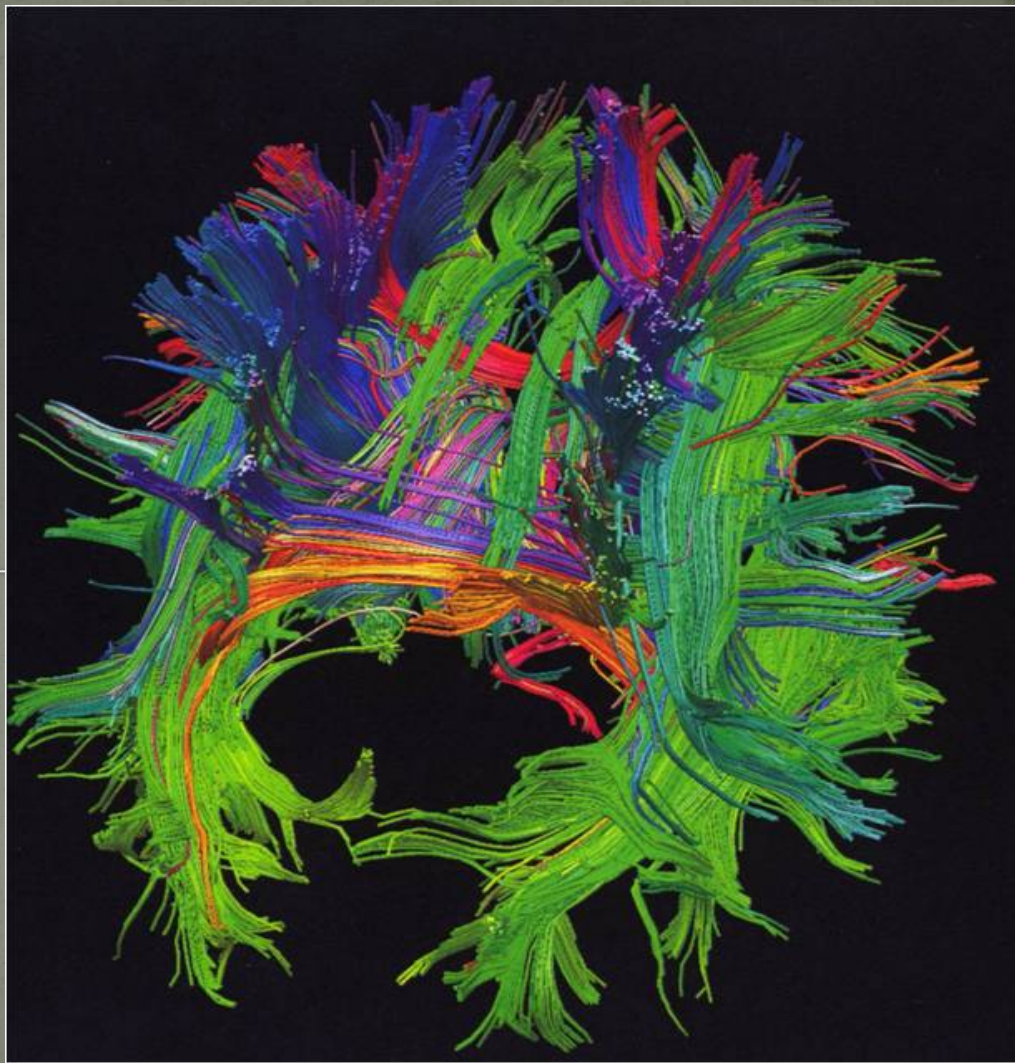
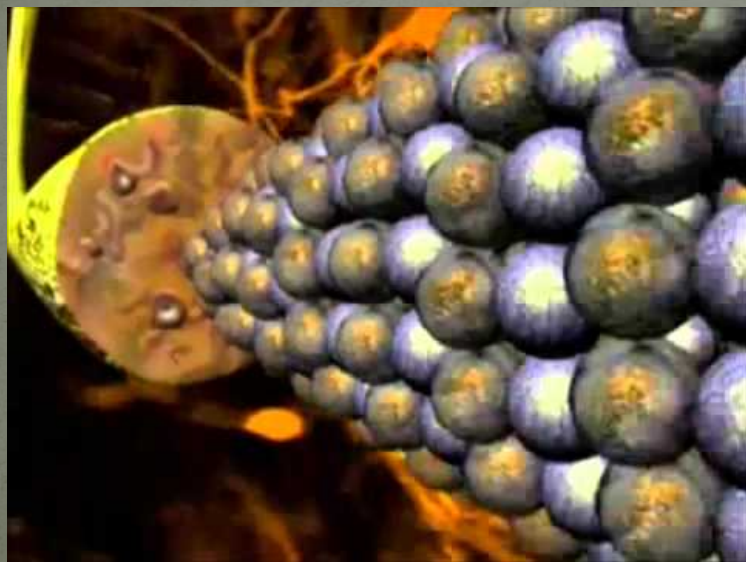
d #Syria







# シナプスの ネットワーク としての脳

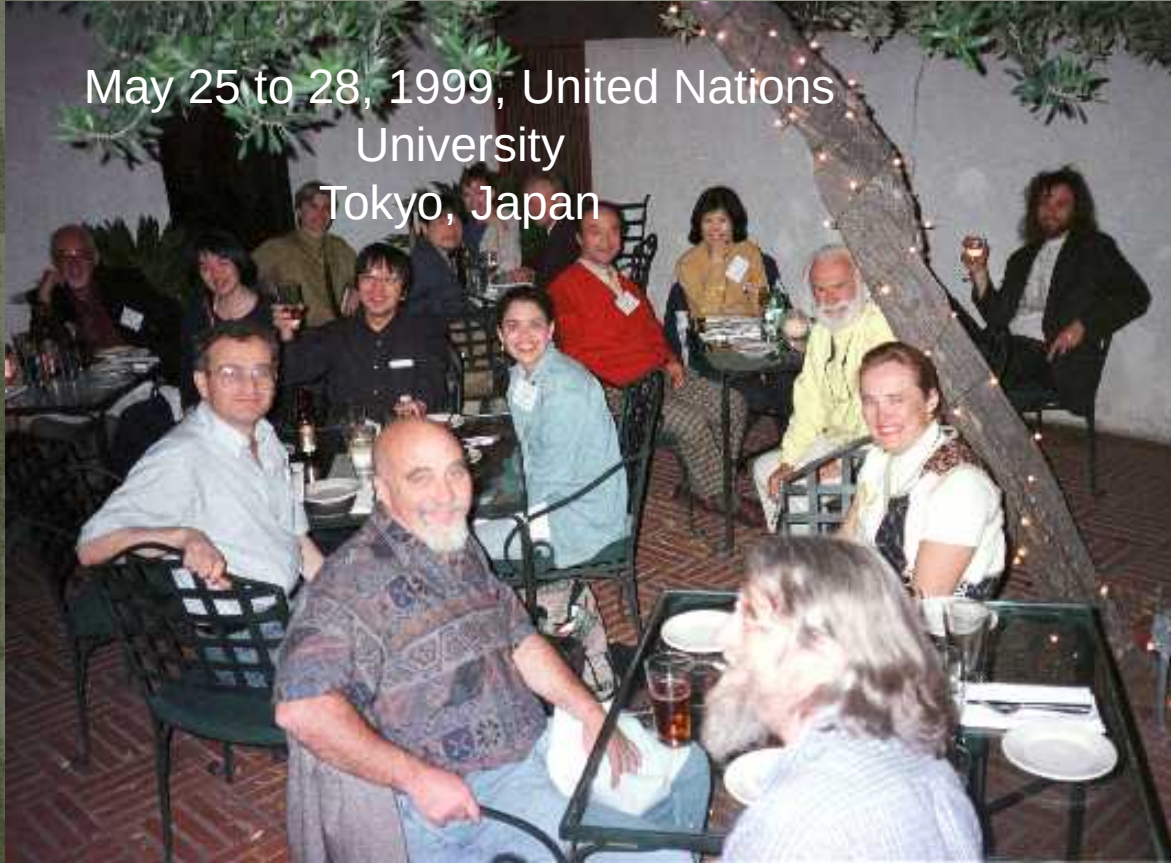




# Toward a Science of Consciousness, TOKYO 99

- Fundamental Approaches -

May 25 to 28, 1999, United Nations  
University  
Tokyo, Japan



## No Matter, Never Mind

Edited by  
Kunio Yasue,  
Mari Jibu and  
Tarcisio Della Senta

Advances in Consciousness Research



# .Caillois カイヨワの「遊び」

競技 アゴーン

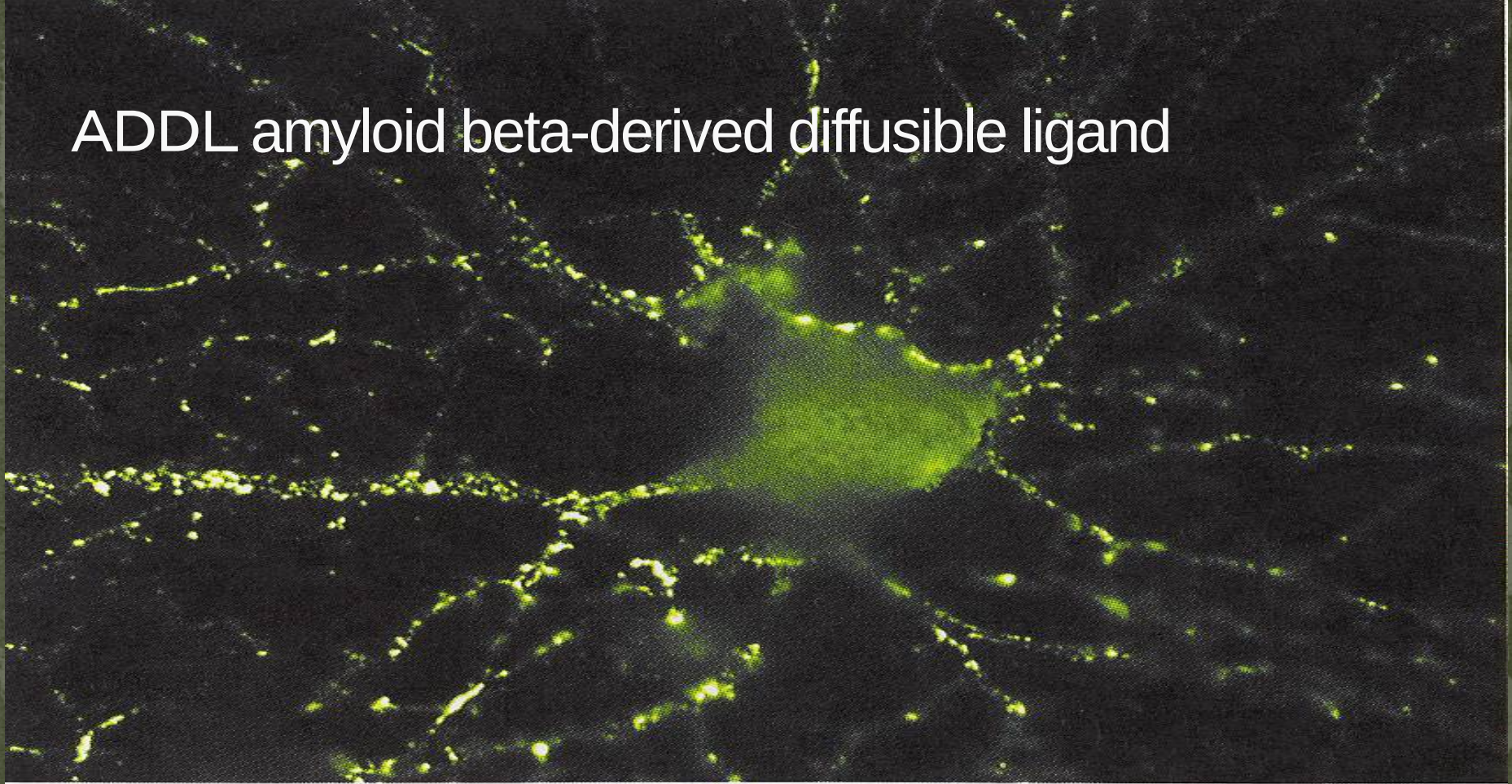
賭博 アレア

模擬 ミミクリー

眩暈 イリンクス



ADDL amyloid beta-derived diffusible ligand



防御因子

知的活動  
運動

食事  
アルコール  
NSAIDs

降圧薬

高等教育

加齢

高血圧  
血管因子  
ライフスタイル  
うつ病  
頭部外傷  
職業的暴露

社会経済的  
要因

遺伝的要因

促進因子

年齢

NSAIDs：非ステロイド性抗炎症薬





